

予習確認プリント

学年：_____ 学籍番号：_____ 名前：_____

・空気音と固体音にはどのような違いがありますか？

・吸音材料とはどのような材料ですか？また、どんな種類（構造）がありますか？

・吸音と遮音にはどのような違いがありますか？

※予習の段階に比べて、授業を聞き終わった段階では、何がわかりましたか？

2 室内の音 (教科書 pp. 119~126)

3 吸音 (教科書 pp. 120~121)

「3-2 吸音材料と吸音構造 (教科書 pp. 120~121)」についての補足

吸音機構	断面構造	吸音特性	備考
多孔質型吸音	<p>a: 剛壁密着 b: 空気層がある場合</p>		<p>a: 高音域吸音 (多孔質材の厚さが大きいほど吸音率は大き)</p> <p>b: 全音域吸音 (空気層の厚さが大きいほど吸音率は大き)</p> <p>カーテンやカーペットなどもこの種類に入る。</p>
(B) ヘルムホルツの共鳴器			<p>特定の周波数の吸音 (一般に低音域)</p> <p>共鳴周波数: f_0</p> $f_0 = \frac{c}{2\pi} \sqrt{\frac{S}{l_e \cdot V}}$ <p>ただし, $l_e = l + 0.8d$ d: ネックの直径 c: 音速</p>
共鳴器型吸音			<p>中音域吸音 共鳴周波数: f_0</p> $f_0 = \frac{c}{2\pi} \sqrt{\frac{P}{(t + \delta)L}}$ <p>ただし, $\delta = 0.8d$ d: 円孔の直径 c: 音速 P: 開口率 t: 板厚(m) L: 空気層厚(m)</p>
(D) リブ・スリット構造			<p>低・中音域吸音 (注)(A)の吸音構造の表面保護材としてリブなどを用いる場合には, できるだけ開口率を大きくする。</p>
板振動型吸音			<p>低音域吸音 一般的な板材料を用いた構造では, 100Hz 前後に吸音のピークが生じる。</p>

図 吸音機構の種類と特性 (出典: 参考文献[1], p. 183)

5 壁・床の遮音等級 (教科書 pp. 125~126)

「5-1 壁の遮音等級 (教科書 p. 125)」についての補足

壁の遮音性能の測定方法

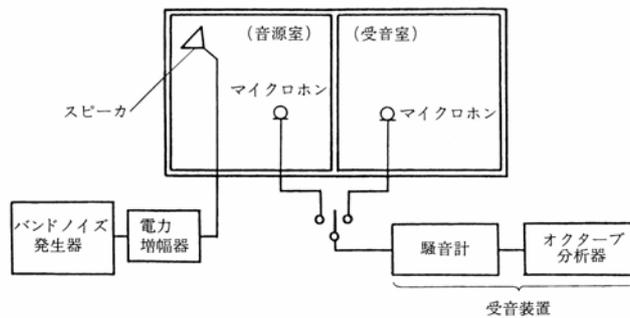


図 空気音遮断性能 (空気音圧レベル差) の測定方法 (出典: 参考文献[1], p. 200)

表 室間平均音圧レベル差の適用等級 (出典: 参考文献[2], p. 42)

建築物	室用途	部位	適用等級			
			等級	1 級	2 級	3 級
集合住宅	居室	隣戸間界壁	Dr-55	Dr-50	Dr-45	Dr-40
		” 界床				
ホテル	客室	客室間界壁	Dr-55	Dr-50	Dr-45	Dr-40
		” 界床				
事務所	業務上プライバシーを要求される室	室間仕切壁 テナント間界壁	Dr-50	Dr-45	Dr-40	Dr-35
学校	普通教室	室間仕切壁	Dr-45	Dr-40	Dr-35	Dr-30
病院	病室 (個室)	”	Dr-50	Dr-45	Dr-40	Dr-35

「5-2 床の遮音等級 (教科書 p. 126)」についての補足

床の遮音性能の測定方法

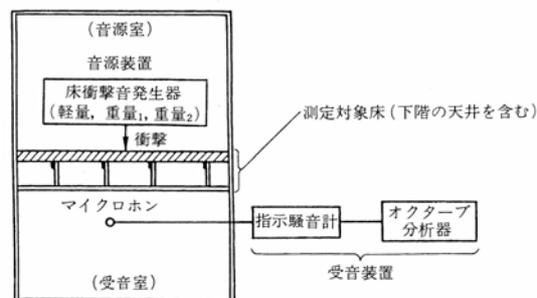
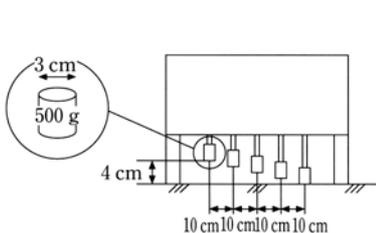


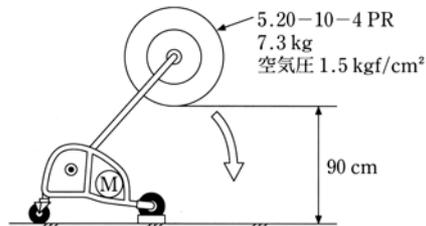
図 床衝撃音レベルの測定方法 (出典: 参考文献[1], p. 200)

床衝撃音発生器



モーターによってハンマーを連続して自由落下させる。
1回の落下で1度しか床を叩かないようになっている。

図 タッピングマシン (標準軽量衝撃源)
(出典：参考文献 [3], p. 112)



モーターによってタイヤを円弧状に自由落下させる。
1回の落下で1度しか床を叩かないようになっている。

図 バングマシン (標準重量衝撃源)
(出典：参考文献 [3], p. 112)

表 床衝撃音レベルの適用等級 (出典：参考文献[2], p. 43)

建築物	室用途	部 位	衝 撃 源	適用等級			
				特級	1 級	2 級	3 級
集合住宅	居室	隣戸間界床	重量衝撃源	Lr-45	Lr-50	Lr-55	Lr-60, Lr-65*
			軽量衝撃源	Lr-40	Lr-45	Lr-55	Lr-60
ホ テ ル	客室	客室間界床	重量衝撃源	Lr-45	Lr-50	Lr-55	Lr-60
			軽量衝撃源	Lr-40	Lr-45	Lr-50	Lr-55
学 校	普通教室	教室間界床	重量衝撃源 軽量衝撃源	Lr-50	Lr-55	Lr-60	Lr-65

* 木造、軽量鉄骨造またはこれに類する構造の集合住宅に適用する。

【参考文献】(順に、タイトル、編著者名、出版社、発行年月、価格、ISBN。[]内は熊本県立大学学術情報メディアセンター図書館所蔵情報。)

[1] 『環境工学教科書 第二版』(環境工学教科書研究会編著, 彰国社, 2000年8月, ¥3,500+税, ISBN: 4-395-00516-0) [和書(2F), 525.1||Ka 56, 0000275620, 0000308034]

[2] 『誰にもわかる音環境の話 騒音防止ガイドブック (改訂2版)』(前川純一・岡本圭弘, 共立出版, 2003年2月, ¥3,200+税, ISBN: 4-320-07691-5) [和書(2F), 519.6||Ma 27, 0000350315]

[2] 『図説テキスト 建築環境工学』(加藤信介・土田義郎・大岡龍三, 彰国社, 2002年11月, ¥2,400+税, ISBN: 4-395-22127-0) [和書(2F), 525.1||Ka 86, 0000310578]

→第二版もあり(2008年11月, ISBN: 978-4-395-22128-8) [和書(2F), 525.1||Ka 86, 0000320417]

学年：_____ 学籍番号：_____ 名前：_____

【演習問題】 下記の問いに答えよ。

- (1) 2 室間の室間音圧レベル差を中心周波数 125Hz から 4,000Hz の 6 つの 1/1 オクターブバンド音圧レベルを測定したところ、125Hz で 30dB, 250Hz で 33dB, 500Hz で 40dB, 1,000Hz で 42dB, 2,000Hz で 50dB, 4,000Hz で 52dB であった。その遮音等級はいくらか。教科書 p. 125 の図を用いて、答えよ。
- (2) ある上下階 2 室間の床について、軽量衝撃源により下階の 1/1 オクターブバンド音圧レベルを測定したところ、中心周波数 63Hz から 500Hz が支配的で、その値は 63Hz で 53dB, 125Hz で 55dB, 250Hz で 54dB, 500Hz で 35dB であった。その床衝撃音等級はいくらか。教科書 p. 126 の図を用いて、答えよ。